

日本と韓国のごみ問題について

人間科学部 コミュニケーション学科 2年 小林和佳子
韓国・大邱カトリック大学

1. SDGs のテーマ

私が取り組んだ SDGs 課題のテーマは「日本と韓国のごみ問題」についてです。このテーマは、SDGs の目標の中の「12：つくる責任・つかう責任」「13：気候変動に具体的な対策を」に基づいており、主にごみの分別とリサイクルの観点で調査をしてきました。

2. このテーマを選択した理由

なぜ調査の内容をごみの分別やリサイクルに決めたのかというと、ごみの問題が私たちにとって身近なものであり、また、問題に対して、簡単にすぐに行える対策が多いと考えたからです。また、茨城県では、ゴミのリサイクル率が 22%であるのに対し、大邱では約 60%と茨城県と大きく差が出ている点も疑問に感じたからです。

3. 活動計画

留学前に立てた活動計画は以下の通りです。

到着～1 か月	韓国のごみの分別方法を観察する。 リサイクルボックスなどが設置してあるか観察する。
～2 か月	ごみの分別やリサイクルに関して、日本との違いを見つける。 ごみの分別方法や、リサイクルに関しての課題を見つける。
～3 か月	課題の解決方法を考える。
～4 か月	調査した内容を日本と比較し、まとめる。

4. 実際の活動内容とその成果

【1 か月目】

1 か月目は、主に韓国のごみの分別方法について調査を行いました。その結果日本よりも韓国のほうがごみの分別が細かくされていることに気が付きました。また、韓国では、一般ごみを捨てるごみ箱と一緒にペットボトルや缶を捨てるごみ箱が設置されている点や、生ごみ専用のごみ箱が設置されている点から、よりリサイクルにつながりそうな環境が整っていることに気が付きました。さらに、寮のごみ箱は紙の分別がされていませんでしたが、大学内のごみ箱は紙の分別がされており、場所ごとに出やすいごみを配慮してごみ箱を設置していることに気が付きました。

【2 か月目】

2 か月目は、主に韓国のごみの分別・リサイクルに関する課題や、日本との違いについて調査しました。その結果、韓国のごみの分別・リサイクルに関する課題について、ごみのポイ捨てが多いこと、日本ではプラスチックごみとペットボトルを分けて捨てていますが、韓国では分別していないことにも気が付きました。また、日本と韓国の違いについては、ごみの分別の種類、プラスチックの分別方法、カフェのグラス・マグカップの利用率などがあることに気が付きました。

【3 か月目】

3 か月目は、2 か月目に発見した「プラスチックごみの分別方法」と「ポイ捨て」についての課題の解決方法について考えました。まず、プラスチックごみの分別方法について、寮や大学のごみ箱の隣に、日本のようなペットボトル専用のごみ箱を設置し、今までペットボトルを捨てていたプラスチックごみを分別する場所に、カップや包装のプラスチックごみを捨てるようにするのはどうかと考えました。韓国にはカフェが多く、プラスチックごみが出やすいので、ペットボトルとプラスチックごみを分別できたら、リサイクルできるものが増え、環境に良いと考えました。次に、ポイ捨てに関する課題について、ごみ箱を設置するという解決方法を考えました。ただごみ箱を増やすのではなく、ごみのポイ捨てが特に多かったバス停の近くにごみ箱を設置すると良いと考えました。また、ポイ捨てしやすい環境であることも問題であると考え、日本のような「クリーン作戦」を実施することも課題解決方法として考えました。

5. おわりに

今回の調査を通して、韓国だけでなく日本のごみ問題についても向き合うことができました。ごみ問題は、私たちの身近にあるものであり、私たちが意識することで解決できる課題も多いです。今後、身の回りにある SDG s に目を向けて、少しでも SDG s の実現に貢献できるように意識しながら行動していきたいです。